

スポーツと視覚デザイン

—国体ポスターに見るスポーツ広報史—^①

若山 博
服部 光彦

●スポーツ振興の背景●

日本のスポーツ人口が最近急激な伸びを見せている。そしてこの現象は、今後も続くだろうという見通しである。

あるスポーツ品メーカーの調査によると、何らかの形でスポーツをする人は今、約5,000万人を数え、大ざっぱに言って、2人に1人はスポーツをしていることになる。又、スポーツをすることはないが、「見ること」が好きだというスポーツファンが「する人」とオーバーラップしつつも3人に2人はいるというデータがある。大変な数である。

スポーツ人口が増加している要因はいくつかあろう。そのまず第1は、健康との兼ね合いである。アメリカやヨーロッパと同様、国民の今一番の関心事は、健康問題であるという調査結果がある。特に先進国では政治問題、経済問題を抜いて健康に対する関心がトップである。医学や食生活の問題と共に、自分で身体を鍛える即ちスポーツをすることによって、健康を維持増進させたいという欲求が全体のベースになっているのである。

第2の要因は、スポーツに対する考え方が変化してきたことが上げられる。スポーツは特定のきびしい練習に耐えられる者達だけのものでもなく、又、日本武道に端を発する精神的鍛練を目的にするものでもない。即ち誰もが自由に伸び伸びと身体を動かしてもっと身近に楽しむものであるというスポーツ観が生まれてきたことである。

第3の要因は、国や地方公共団体が以前に増してスポーツ振興に力を注ぐようになったことである。文部省のスポーツ公共施設補助金の伸びを見ると、この10年間に約200億円の伸びを

示している。各地のコミュニティスポーツセンターが数の上で又その質の上でも充実し、誰もが自由に手軽にスポーツに親しめる環境になったのである。

第4の要因は、国民所得の増大、余暇時間の増加があろう。財団法人余暇開発センターが最近報じた指針によれば、今後の日本経済、特に生産性の平行状態の予測から、必然的に平均労働時間は年間1500時間になろうとし、従って、1ヶ月のバカンス、週休3日制が定着すると予測した上で、その余暇時間の使い方として、趣味を持つことと、スポーツに親しむことをあげ、今からその準備をしなければならないことを提言している。

第5の要因は、スポーツ広報の充実がある。スポーツがメディアになったのである。これにはマスコミによるところが大きい。テレビに於けるスポーツ番組の比率が年々増大し、新聞のスポーツ面の充実が計られ、又、各種スポーツ紙やスポーツ雑誌の販売高が急増してもいる。一方、大企業が多額の経費を投入し、種々の競技会を開催するようになった。国内選手だけでなく、世界のトップレベルの選手やチームを集め、大きな競技会をプロモートし、その成功率も高い。もちろん企業の第1目的は、その競技会をバックアップすることによって、企業のイメージアップを計る経営戦略の一つではあるが、結果としてスポーツ振興に大いに役立っている。又、競技会の狭義の広告技術そのものもレベルアップした。単一のメディアだけに片寄ることなく、又、関係者だけでなく、その競技会を取り巻くすべての環境に適応させる様々なメディアと仕掛が導入されるようになった。この様な有効な広報のあり方は競技会の成功はもちろん、スポーツ振興に大きな力となり得るものである。

●スポーツ広報と国体ポスター●

スポーツ広報を考える場合その媒体、即ち広報メディアとは何を指すのかがまず問題になろう。現在のところ明確な定義はないが、これはいくつかのとらえ方があるからである。しかし、最も広義に考えるならば、

・スポーツイベント・スポーツ選手・スポーツ施設・スポーツ用具・スポーツウェア・新聞・TV・ラジオ・雑誌・ポスター・その他（補助媒体）

と、なろう。しかし各々のメディアの中でもなおかつ様々な考え方ができる。例えば新聞の場合一般紙のスポーツ欄と、スポーツ専門紙とではメディアとしての性格が異なり、又、そのメディア性と左右要因は昨今問題になってきた「アマチュアリズムとコマーシャルリズムとの問題」をも含み、そのとらえ方は尚複雑になる。この様な前提を踏まえ、国体広報の中核の一つ国体ポスターを考えてみると、初期即ち戦後間もない頃の主な広報媒体は勿論、新聞やポスター等のプリントメディアが主であった。戦後の物質のない時代、印刷物といえども資材としての紙をも含め、カラフルな美しい大きな画面のポスターは貴重な存在であっただろう。配布されたそのポスターは国体開催地の人々に、地域住民としての協力とその成功を強くアピールしたに違いない。制作関係者についても、当時日本のトップレベルのデザイナーの手によるポスターも例外的に存在するが、その他の多くはその地域の画家や、図案家などと呼ばれていた人達が、自己の晴れの舞台として息込んで取り組んだことは想像に難くない。

この様なポスターも、社会、経済の安定発展と共に、又、広報技術、印刷技術の進歩と共に、物理的、審美的要因は高級かつ美的なポスターへと移行していった。が、一方広報媒体としてのコミュニケーション機能から見たその効果は、少しずつ減少することになる。プリントメディアに対する映像メディア、即ちTVの出現と、その急激な普及である。映像そのものが本質的な持っている強いパワーをベースに、普及率10

0%近くになると、伝達手段としては、ポスターをはるかに上回った。TVはニュースとして国体開催を予告し、実況放送で各種スポーツのダイナミズムをダイレクトに伝え、再びニュースとしてその結果や記録を報道してしまう。ポスターのモチーフに使用された写真が如何に力感あふれるシャープな画像であろうと同時性を本領とするTV画像には、その情報量の点で後退せざるをえない。

この様な状態になると、ポスターの機能はポスターそのものの話題性、グラフィックデザインとしての装飾性、国体開催そのことの記録性等が、ポスターのメディアとしての特性になってくる。国体ポスターの多くは開催日、場所、種目を知らしめることのみ力点が置かれている。即ち予告機能に終始しているかの様であるが、前述の通り今日のメディアの複層化、デザイン環境の変化等の現状から見ても、国体ポスターの意義とその機能について再考せねばならない時期である。

この意味において、本研究は国体ポスターの複写収録に努力し、カラーフィルム及びカラープリントに収めることを第1ステップとした。未だ欠落しているポスターもあるが、全国に散在し、その存在すらも不明であり、又、開催県でさえそのポスターを完全保存していない現状での260余点の収録は、全国的に調査しても本研究ファイルしか存在しないと思われる。カラーフィルムの退色以前にカラー印刷物として定着させたいが、未だその機を逸している。以下、具体的にデザインの見地から国体ポスターの歴史を振り返る。不本意ながら誌面上、第16回（36年）迄のポスターを掲載するに留まるが、次号に続けたい。

●昭和21年～30年代（第1回～第10回）●

GHQにより、集団行進や国旗、国歌等が御法度とされていたものの、ただスポーツへの憧れと、意気と情熱に燃え、3日間余の長旅の末開催地に到着し、しかも各自、主食・毛布持参で参加した選手も多かった。この様な状況から国体はスタートした。「国体開催より難民救済

を優先せよ」として国体反対の声も少なからずあった。

第3回(23年)ぐらいから競技種目、種別が調整され参加人員も増加し、大会の規模が拡大していった。

第5回(25年)の主会場になった名古屋市でいわゆる百メートル道路の建設が行なわれた様に、国体を目標にして都市計画事業が進む開催県が多くなった。国体広報の一つとして「スポーツくじ」も計画された。マスコミも大、小のニュースやキャンペーンを展開し、積極的なスポーツ広報を行なった。しかしながら、第9回(29年)北海道大会でさえ、道内各地で国体の説明に向けた組織委員に「民主主義になった今、国体護持でもあるまいに」とたしなめた地元民も多かったと、笑い話に似たエピソードが記録されている通り、国体全体のPRも、全国津々浦々とまではとどかなかった様である。

戦後間もない時期であり、印刷用紙さえも今日の様に豊富でなかった。23年には児童の教科書用紙の不足から全国116の日刊新聞社が、新聞用紙を供出した時代である。国体ポスターにもその社会状況を読み取ることができる。デザイン的に見ると、まず、国体シンボルマークの扱い方がまったく不統一、不正確であることが目につく。片柳忠雄氏の作によるこのマークは、第2回石川県大会から使用されたものであるが、そのオリジナルに基づいたマークは1点としてない。むしろ全く違うといっても過言ではない。シンボルマークについての認識の程度がうかがい知れる例である。

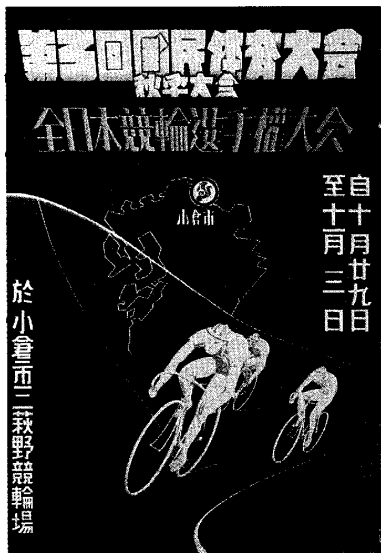
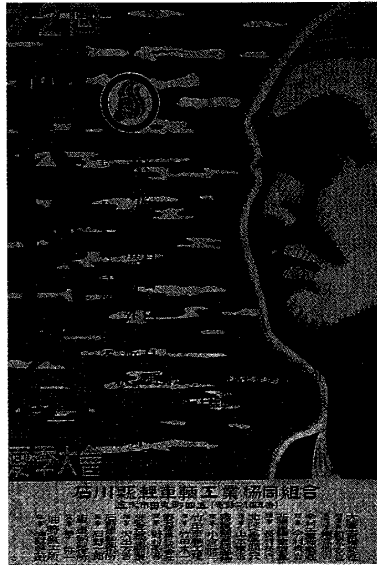
次に商業広告の付帯である。このことは国体開催基準要項に明記されていることであるが、広告料をもってポスター制作の費用に充当することが多かった当時の状況が理解できる。

3つ目の特長は、表現されている文字のほとんどがハンドレタリングによることである。そしてそれはかなり大きく、最大のものは文字の天地が、ポスターの天地の約4分の1を占めるものもある。又、ハンドレタリングが斜めにレイアウトされることも多い。しかし全般的にそのテクニックのレベルは低い。

ビジュアルモチーフは、スポーツをする人物のイラストレーションが圧倒的に多いなかで、第3回の人魚や月桂樹の冠をいただいた古代人、第10回の白馬とエンジェル等のイラストレーションが注目されるが、これ等の中にその時代のアイデア、発想の広がりを見ることができる。色彩的には、明度の低い色をかなり広い面積に渡って使用していることが多々見うけられ、現在からして見れば地味な配色である。用紙サイズも各大会によって不統一で、紙質も今日のように、アート紙やコート紙等の高級印刷用紙ではなく中級紙あるいはそれ以下の用紙が使用されている。印刷方式は石版印刷の全盛期をうかがわせ、石版印刷らしいグラデーションや筆致を生かしたデザインが多い。

デザインそのものとは無関係であるが、イラストレーション中に表現されたスポーツ用具、ユニホームは、今日のそれ等との対象として面白い。

(参考文献：都道府県体育協会連絡協議会発行国民体育大会のあゆみ)



第3回
国民体育大会
 夏期大会
 九月十六日~十九日
 於八幡市大谷プール
 主催 日本体育協会
 後援者 福岡県
 文部省 福岡県

最高峰をゆく
ソーウェラン

第7回国民体育大会
 10月28日~11月10日
安城公園
 ソフトボール会場
 主催 日本体育協会 文部省
 愛知県 豊知県

バレーボール
 10月19~23日
 於山形市
 主催 日本体育協会 文部省
 後援者 山形県

ビニールはモンサント

第7回
国民体育大会
 10月19日~23日
 於 山形県体育館
 主催 日本体育協会 文部省
 後援者 山形県 山形市

確安 東北肥料

第7回
国民体育大会
 於 山形五中体育館
 10月19日~10月23日
 主催 日本体育協会 文部省
 後援者 山形県 山形市

千代田経済株式会社

第7回国民体育大会
 夏季大会水上競技
 9月20日~23日
 於 栃木県総合運動場7-プール
 主催 日本体育協会 文部省
 後援者 栃木県 山形県

風味一番集 酒焼

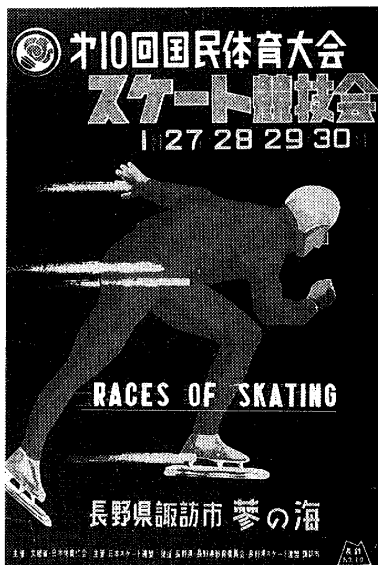
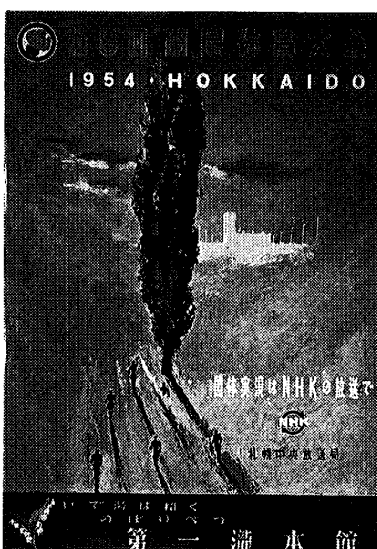
10月19日~23日
第7回国民体育大会 秋季
 主催 日本体育協会 文部省 後援者 福岡県 宮崎県 山形県
 ソフトカード 明治三ナミル

第7回
国民体育大会
 10月19日~23日
 主催 日本体育協会 文部省
 後援者 山形県

明治ミルクチョコレート

第7回国民体育大会
卓球
 10月19日~23日
 主催 日本体育協会 文部省 後援者 宮崎県 山形市

皆様の七十七銀行



●昭和31年～40年代（第11回～第20回）●

第12回（32年）静岡大会のマスゲームにおける婦人会の民謡は、家庭婦人が国体に初めて参加したとして注目をあびた時代。戦後の混乱期を通り抜け、社会が猛烈なスピードで変革していく時期である。コミュニケーションメディアとしての写真表現が大いに受け入れられ、31年の銀座の小西フォトギャラリーに1日1万人の写真鑑賞者が押し寄せた。又、TVは31年には21万台、33年には81万台、35年には375万台、36年には1000万台を突破し、メディアのポジションを明らかに変えた時期である。カラーによる記録映画が撮られたのもこの時代からである。第14回（34年）15回（35年）頃から、各都道府県のユニフォームが整い出し、カラー国体の印象を次第に強めていった。その様な時代を反映するかの様に、ポスター表現にも活気あふれるものが出てきた。最大の変化は、この年代の終盤第19回大会、39年前後から写真表現が登場しだした事である。勿論、日本の写真の歴史はそれ以前にさかのぼるが今迄、手描き一辺倒であった表現技術域に、写真表現が登場したことの意義は大きい。この事は同時に印刷方式の変化をも意味している。即ちオフセット印刷が主流になろうとする時期である。大企業が制作する商業ポスターは既に写真表現が定着してい

たし、オフセット印刷の特長を最大限に生かした写真表現とはいえないが、兎角、地方公共団体レベルでの公共ポスターに写真表現が登場した歴史的意義は大きい。20年代と同様、商業広告入りのポスターが多いが、その広告のレイアウト、ロゴタイプ、マーク、タイプフェイス等に、商業広告界の進展を見ることができる。

ビジュアルモチーフは相変わらず、スポーツをする人物が多いが、人体のディフォルメ、パターン化等による抽象化への試み、ポスターの図案からポスターのデザインへの移行が見られる。20年代に比して色使いが明るくなり、コントラストの明快なポスターが多くなった。

依然としてハンドレタリングが大きなウエイトをしめているが、そのレイアウトに於いて、水平、垂直にデザインする傾向が強くなった。又、国体シンボルマークの表現については未だ完全なものはない。レイアウト面を観察すると第20回岐阜大会のポスターに、現代のレイアウト感覚に通じるモダンデザイン性を垣間見ることができる。

第19回（39年）は、オリンピック東京大会の年でもあり、第20回共々、国民のスポーツ熱がかつてない程の高まりを見せ、カラーテレビの普及、カラーフィルムの急速な開発と相まって、国体全体のイメージとしてカラフル国体のイメージが一層強くなった。（以下次号）



第11回 国体

10月29日 11月1日

高校女子バレーボール
高校女子ソフトボール

会場 姫路市

第11回 国体

10月29日 11月1日

西脇市

第11回 国体

ボクシング

BOXING

10月29日-11月1日

宝塚新温泉内 宝塚市

大和証券

大阪支店 宝塚支店 大井町支店

第11回 国体 射撃

10月28日-11月1日

近畿相互銀行

第11回 国民体育大会

バスケットボール

王子体育館
神戸合宿所
神宮御影

10月28日-11月1日

ONITUKA'S Tiger

メルボルンへ行こう!

10月26日-30日

第12回 国民体育大会

第12回 国体

会場 富士市

10月 26-30日

日本体育協会

文部省 静岡県

9月22日 25日

第12回 夏季大会

第12回 国体

島田市野球場

10.27-29

高校軟式野球

第12回国体 剣道

10月28日-30日

会場 三島市 県立三島南高校体育館

日本体育協会 文部省 静岡県



第12回国体大会 射撃

10月27日-29日 静岡射撃場(女子)

10月28日 県警警察学校射撃場(男子)

5 6 7 8 9 10 9 8 7 6 5

日本体育協会 文部省 静岡県


SMCの缶詰



12 国体 ソフトボール

三島市

日本体育協会 文部省 静岡県



1957 12 国民体育大会 一般女子 バドミントン

10月27日-30日 熱海市

日本体育協会 文部省 静岡県



第12回国体 弓道

10月27日-29日

三島市 三島市立弓道場

日本体育協会 文部省 静岡県

ヨコハマタイヤ

横濱護謨製造株式会社三島工場



高校野球 第12回国体

静岡市 県立静岡球場

10月26日-30日

日本体育協会 文部省 静岡県

缶詰は はとろし印

清水市 藤原産菓株式会社



軟式庭球

10月26日-30日

浜松市 市立立花球場

第12回国体

日本体育協会 文部省 静岡県

FRIBRAV Service Ace

のラケット



第12回国体 浜松市 野口公園

バレーボール

10月27日-30日

日本体育協会 文部省 静岡県


オートバイ

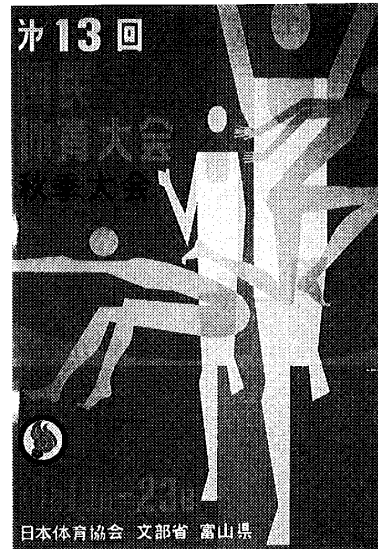
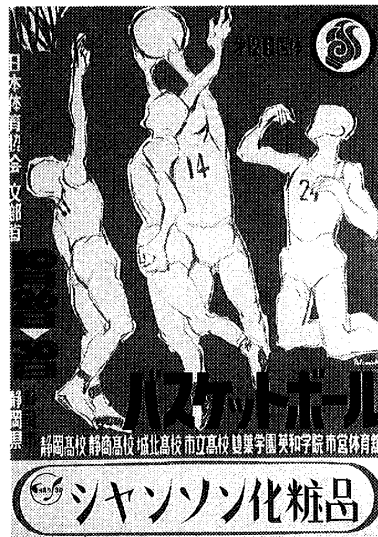
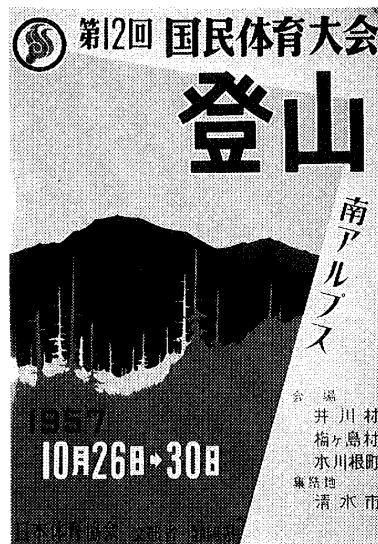
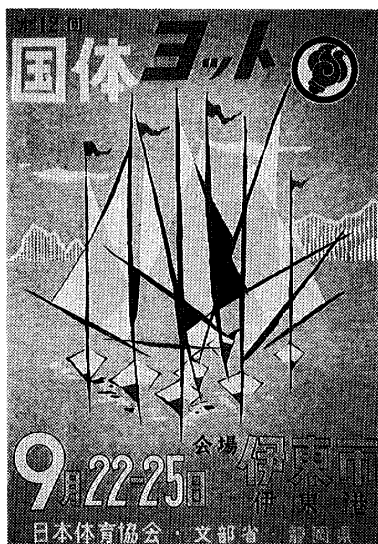
125 175 250



第12回国体 沼津市

体模 ホッケー フェンシング 準硬式野球





第13回国民体育大会
ウエリフティング

10月20日 - 23日

会場 滑川市
旧市立滑川中学校体育館

日本体育協会 文部省 富山県

バスケットボール

1958 10月19日 - 23日

会場 氷見市 八尾町

日本体育協会 文部省 富山県

夏季大会
琵琶湖船艇会

会場 船艇 琵琶湖船艇場
ヨット 藤川湖岸

山・湖・緑のパラダイス
琵琶湖ホテル
大津市 電話(041)4195

水泳

9月14日 - 17日

会場 県営高岡水泳場

特別 アルミ瓦 家庭金物
北陸軽金属工業株式会社

ボクシング

ボイーター

新明和興業株式会社 北日本モーター株式会社

国民体育大会
立山町

ソフトボール

10月18日 - 23日

日本体育協会 文部省 富山県

ケロリン
内外薬品商会

軟式野球

10月19日 - 23日

高岡市古城公園水球場

日本体育協会 文部省 富山県

第13回国民体育大会
登山

立山 朝黒部

9月14日 - 17日

日本体育協会 文部省 富山県

中部山岳国立公園黒部峡谷
宇奈月温泉

第14回国民体育大会

夏季大会 昭和34年9月20日 - 23日

日本体育協会 文部省 東京都

1959

秋季大会
昭和34年10月25日-30日

第14回国民体育大会

日本体育協会 文部省 東京都

第14回
国民体育大会

10月26日-28日
埼玉県戸田

主催 日本体育協会 文部省 東京都 埼玉県

第14回
1959

10月26日-30日
会場 横浜市ヨット港

ヨット

日本体育協会 文部省 東京都 神奈川県 横浜市

第14回国体
射撃

1959年10月25日-29日
村山栄設計射場

文部省 日本体育協会 東京都
日本クレイ射撃協会

狩猟界
狩猟手帳

第14回国体
バドミントン

1959 10月26日-30日

主催 日本体育協会 文部省 東京都

1959
第14回国民体育大会
軟式野球

10月26日-10月30日

会場 一般軟式ノ部
大田区萩中球場
一般準硬式ノ部
品川区天王洲球場

日本体育協会 文部省 東京都

第十四回
国体
ソフトボール

1959
10月25-30日

会場 駒沢野球場

主催 日本体育協会 文部省 東京都

美津濃
ピカソ
ミカサ

1959
第14回国民体育大会 10-25-30

体操

東京体育館

祝 第14回国民体育大会
勢能体育用品株式会社

第十四回東京国体
登山

雲取山
多摩水源の山々
昭和34年10月25日-29日

日本体育協会 文部省 東京都

Caravan
山崎社

第14回国体
ライフル射撃

会場 江東区枝川町先8号埋立地倉庫前川射撃場
 会期 昭和34年 10月 26-28日

日本体育協会・文部省・東京都

大洋漁業 ミヨシ油脂 亜細亜石油
 株式会社 株式会社 株式会社

第14回国体
テニス

10月26・27・28・29・30

精神がつく **パント** 金錠

女子
 第14回国体
相撲

10月26日▶28日
 靖国神社相撲場

主催・日本体育協会・文部省・東京都

明治生命

第14回国体
バレーボール
 10.26/29

種別バレーコート
 一般男子・女子
 高校男子・女子
 教員男子

日本体育協会・文部省・東京都

ミカサ **ボール**

第14回国体
ウェイトリフティング

10月26日→29日
 会場→国立競技場室内体育館
 日本体育協会・文部省・東京都

だんぜん元気が出る
グロンサン 金錠

第15回国体
**国民体育大会
 夏季大会**

1950年
 9月 24日-27日

国民体育大会

山鹿中学校体育館

ニョカサラダ油
 ニョカ天ぷら油

第15回国体
ハンドボール
 10.23-27

本俣ハンドボール競技場

日本体育協会
 文部省
 熊本県

歓迎
 百様の **ニョカ** 大洋

第15回国民体育大会
ウエイトリフティング
1960
10月23日-27日

会場 宇土市 宇土高校体育館
日本体高協会 文部省 熊本県

第15回国民体育大会
10月24日-26日

水俣市八幡相撲場
日本体高協会 文部省 熊本県

御物の輸送は
産交運へ

九州産交運輸株式会社

第15回
ソフトボール

人吉市

国民体育大会
ハンドボール
1960
10月23, 24, 25, 26, 27日

水俣ハンドボール競技場
日本体高協会 文部省 熊本県

月星靴

国民体育大会
卓球
1960

会場 一般男女 阿蘇北中学体育館
高校男女 一の宮中学体育館
主催 日本体高協会・文部省・熊本県

阿蘇山ロープウェイ

九州産交運輸株式会社

第15回 1960
国体登山

10月23日-10月27日
阿蘇山系
文部省・日本体高協会・熊本県

月星靴

第15回 国体
ホッケー
1960
10月24日-27日

会場 荒尾市宮総合グラウンド
日本体高協会 文部省 熊本県

月星靴

1961年
10月8日-13日

熊本から 秋田へ

第16回国民体育大会開会式

日本体高協会 文部省 秋田県

第16回国民体育大会
1961.10.8-13

秋田市会場

開会式 阿蘇山相撲場
閉会式 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場
旗手 阿蘇山相撲場

日本体高協会 文部省 秋田県 (秋送)